

動物

物の

雑学

2000

種類



面白い知識

暇つぶしに最適

驚愕の事実



目次

はじめに

ホッキョクグマ

- ・ホッキョクグマの肌は黒い
- ・ホッキョクグマが氷の上を上手に歩ける理由
- ・ホッキョクグマの肝臓を食べると死ぬ
- ・ホッキョクグマも冬眠する
- ・ホッキョクグマは左利き
- ・ホッキョクグマとペンギンは出会うことがない
- ・ホッキョクグマは狩りのときに鼻を隠す

クマ

- ・世界最小の熊
- ・木彫りの熊のルーツ
- ・動物園のクマが冬眠しない理由
- ・クマは冬眠中にはトイレに行かない
- ・クマの冬眠は本当に寝ているのではなくボケーと過ごしている
- ・アメリカグマの鳴き声
- ・不況になるとクマのキャラクターが人気になる
- ・グリズリーの顎の力

パンダ

- ・レッサーパンダとパンダは、実は違う種族
- ・先にパンダと名付けられたのは
- ・パンダの和名
- ・パンダを撫でると
- ・パンダの歯の数
- ・パンダは一日のほとんどを食事に費やす
- ・パンダは肉食系
- ・パンダの寿命
- ・パンダの指は7本
- ・パンダの最高時速
- ・パンダは平和の象徴
- ・パンダのマーキング
- ・パンダの皮膚の色
- ・パンダの毛皮の相場

- ・1990年に絶滅危惧に指定されたパンダ
- ・ジャイアントパンダは70%の確率で双子を産む
- ・パンダビジネス
- ・パンダの尻尾の色
- ・パンダのランランとカンカンは今ハク製になっている

ゴリラ

- ・草しか食べないゴリラがマッチョな理由
- ・数百年前のゴリラ
- ・ゴリラは顔に似合わず繊細
- ・避妊薬はゴリラにも効く
- ・人間の風邪はゴリラにうつる
- ・ゴリラは毎晩新しいベッドを作る
- ・ゴリラは咳とゲップでコミュニケーションをとる
- ・ゴリラの血液型が全てB型というのは嘘
- ・ゴリラが糞を投げる理由
- ・手話を理解するゴリラ
- ・ゴリラの名前の由来
- ・ゴリラの学名はゴリラ・ゴリラ・ゴリラ

サル

- ・ニホンザルはお尻が赤いほどモテる
- ・金玉が鮮やかな青色の猿
- ・喫煙して捕まったサルがいる
- ・サルが同士が毛づくろいをしながら指を舐めている理由
- ・尾のない猿をapeというが
- ・サルスベリという木は本当に猿が滑るのか
- ・猿と呼ばれていた豊臣秀吉は
- ・メガネザルの目は不便
- ・虫に認識されない程動きが遅い猿
- ・究極のフリーセックス
- ・チベットモンキーは、子供をだしにして仲直りする
- ・童謡でおなじみ「アイアイ」と言う猿は
- ・オラウータンの顔の広さ
- ・チンパンジーの握力は300kg
- ・チンパンジーの表情
- ・チンパンジーは共食いをする
- ・チンパンジーはもう一つの進化の形

- ・それぞれ勃起時の大きさ
- ・インドネシアの働くオランウータン

カバ

- ・カバによる被害
- ・カバは自分のうんこを目印にする
- ・カバは泳げない
- ・カバの汗は赤い
- ・カバの母乳の色
- ・カバの肉はうまい

スカンク

- ・スカンクは、臭いとモテる
- ・スカンクが出してるのはオナラではない

リス

- ・一年間のほとんどを冬眠
- ・リスの尻尾はトカゲのように抜ける
- ・リスは後で食べるためにドングリを埋めるが
- ・シマリスの大好物

ネズミ、モルモット、ハムスター

- ・実験用マウスの値段
- ・歴史上最大のネズミ
- ・ネズミはどこまで増える
- ・ネズミの歯は伸び続ける
- ・ネズミの驚きの能力
- ・遺伝子組み換えネズミ
- ・ネズミの列車
- ・ハリネズミの針は毛
- ・ハダカデバネズミの耐性
- ・ハダカデバネズミの驚異の避妊法
- ・違いが判るネズミ
- ・江戸時代にハツカネズミの飼育が静かなブームに
- ・「とがりねずみ」は食べ続けないと死ぬ
- ・実験用のマウスの殺し方は、クラッカーのように引っ張る
- ・最も高くジャンプできる動物
- ・ヤマネは冬眠中に起こされると死ぬ
- ・母親ハムスターは栄養が足りなくなる子供を食べてしまう
- ・ハムスターをお風呂に入れてはいけない

- ・ハリネズミの脈拍
- ・ネズミが治療薬
- ・ネズミの共感能力

ゾウ

- ・ゾウの歯はすり減って無くなる
- ・ゾウの糞の量
- ・ゾウの嗅覚
- ・ゾウは敬語が理解出来る
- ・ゾウの耳が大きい理由
- ・ゾウの記憶力
- ・ゾウの妊娠期間は約2年
- ・ゾウの表面積を求める公式
- ・ゾウは子供の頃は、水を飲むのに口を使う
- ・ゾウの鼻は生まれつき器用に動かせるわけではない
- ・オスゾウのヤバい時期

ナマケモノ

- ・ナマケモノが動かない理由
- ・ペット用のナマケモノは、約100万ぐらいで買える
- ・ナマケモノは自分に生えたコケすらも食料にする
- ・ナマケモノのトイレ
- ・ナマケモノは水の中では俊敏に動く
- ・ナマケモノのオスが繁殖期にメスを呼ぶときに「ピョー」と呼ぶ
- ・昔のナマケモノはヤバかった

カンガルー

- ・オーストラリアのカンガルーの数
- ・カンガルーの求愛
- ・妊娠する時期をコントロール出来る動物
- ・5万年前のカンガルー
- ・カンガルーの赤ちゃんの大きさ
- ・カンガルーは袋の中に産まれるわけではない
- ・カンガルーの赤ちゃん
- ・カンガルーは後ろにジャンプすることができない
- ・鳥の脳みそだけをすするカンガルー

コアラ

- ・コアラはユーカリの木だけで生きている
- ・コアラが木に捕まっている理由

- ・コアラの赤ちゃん
- ・コアラはユーカリのせいで怠け者
- ・コアラの病気

アリクイ

- ・アリクイが一日に食べるアリの数
- ・アリクイには歯がない
- ・オオアリクイは爪が邪魔でうまく歩けない
- ・コアリクイの威嚇

コウモリ

- ・コウモリの種類
- ・血を吸うコウモリ
- ・チスイコウモリは血を吸うと飛べなくなる
- ・コウモリは哺乳類で、唯一空を飛べる
- ・コウモリ爆弾

アルマジロ

- ・ココノオビアルマジロは、産まれてくるときに
- ・アルマジロ驚異の装甲
- ・アルマジロはおやつ

その他動物の雑学

- ・動物の野生、飼育下での寿命
- ・生物の99%は滅びるか進化する
- ・哺乳類だけヘソが存在しない
- ・動物にしっぽがある理由
- ・史上最大の草食動物
- ・動物の死ぬまでの鼓動の数は一緒
- ・異種交配された動物たち
- ・狩りの成功率
- ・草食動物が大きくなれる理由
- ・肉食動物と草食動物の見分け方
- ・最速の草食動物
- ・あの動物の肉の味
- ・天然記念物は捕まえるのは違法だが、食べるのは違法ではない
- ・動物園ができた理由
- ・上野動物園一日の食費トップ10（パンダいないとき）
- ・ポリシヨイサーカスは、虐待批判のため公演できない国が増えている
- ・オカピは油まみれ

- ・アライグマは凶暴
- ・カピバラはお尻を揉むと寝てしまう
- ・モグラは日の光を浴びても死なない
- ・モグラは泳げる
- ・モグラが一晩で穴を掘れる距離
- ・ソレノドンの毒
- ・ホッキョクキツネは季節で色が変わる
- ・タヌキは死んだふりをよくする
- ・死んだふりが上手な動物
- ・モモンガ専用の横断歩道がある
- ・ムササビは木登りは得意だが
- ・イイズナというイタチの仲間は小さいのに大きなものに喧嘩を売る
- ・ミーアキャットの食事
- ・ファイレットは配線工事をしていた
- ・メスのフェレットが発情すると
- ・チンチラの体にはノミが存在しない
- ・動物のヌーは一年間で日本を横断する距離を移動する
- ・サイの角は毛が硬化したもの
- ・カモノハシは哺乳類でも卵を産む
- ・ヤマアラシを漢字で書くと
- ・ウォンバットのうんこ
- ・バクはお尻を水につけないと排便出来ない
- ・動物が逮捕

鳥の雑学

ニワトリ

- ・ニワトリが安心する光
- ・ニワトリはカルシウムが不足すると、自分の卵を食べてしまう
- ・黄身が2つの卵
- ・食肉用に品種改良されたニワトリの30%は
- ・ニワトリの上下社会
- ・昔、男性の同性愛者を指す言葉として「鶏姦（けいかん）」という言葉が使われていた
- ・オスのヒヨコの末路
- ・ニワトリがほぼ毎日卵を産む理由
- ・ニワトリが生涯産む卵の数
- ・無重力下では卵は孵らない

- ・ニワトリは飛ぶことが出来る
- ・羽が抜けたニワトリ
- ・首を切断されて一年以上生存した鳥がいる

ハト

- ・ハトやニワトリが頭を上下に動かして歩く理由
- ・伝書バトは平均時速150 k m
- ・ハトは乳でヒナを育てる
- ・手品で白いハトを使う理由
- ・鳥類史上最も数が多かったとされる鳥は絶滅した
- ・公園の鳩は人が近づいても、なぜ逃げないのか
- ・カラスの頭のよさ
- ・カラスの卵
- ・カラスは道具を使える
- ・ダチョウの脳みその大きさ
- ・ダチョウが土の中に頭を突っ込む理由
- ・ダチョウは体に小石を1 k gも体に溜めている
- ・ダチョウの卵で、ゆで卵をつくるには
- ・ダチョウのスタミナ
- ・最も長生きした鳥
- ・冬の雀が大きい理由
- ・小鳥がさえざる理由
- ・カナリアの危険察知
- ・カナリアは歌を忘れることはなく新曲を毎年覚えていく
- ・カナリアの色
- ・七面鳥の「七面」とは
- ・オシドリは浮気する個体が結構いる
- ・ペリカンが鳩を丸呑みする悲劇
- ・毒を持った鳥
- ・フクロウには嗅覚がほとんどない
- ・卵を産むと禿る鳥
- ・ハゲワシが禿げている理由
- ・鷹（タカ）と鷲（ワシ）と鳶（トビ）の違いは大きさ
- ・渡り鳥の群れは何故V字の陣形で飛ぶ
- ・世界最小の鳥
- ・卵やヒナがあるツバメの巣を壊すのは犯罪
- ・ツバメが家に巣をつくる理由

- [・何ヶ月も飛びつづける鳥がいる](#)
- [・アマツバメのデンジャラスな睡眠法](#)
- [・ツルの一声とは](#)
- [・水鳥が水面に浮く理由](#)

[フラミンゴ](#)

- [・フラミンゴの食事法](#)
- [・動物園のフラミンゴが逃げない理由](#)
- [・フラミンゴが、水場で片足立ちしているのは単に水が冷たいから](#)
- [・フラミンゴはエビを食べて赤くなる](#)
- [・ヒメコンドルは世界一下品な鳥](#)
- [・ウグイスの鳴き声](#)
- [・鳥の目](#)
- [・クジャクの羽は美しさ以外役立たない](#)
- [・チドリの足](#)
- [・生物史上最も大きい卵](#)
- [・キツツキの頭への衝撃](#)
- [・キツツキがスペースシャトルに穴を開けて打ち上げ中止になった](#)
- [・ハチドリは蜜を舐めていないと簡単に餓死する](#)
- [・インコとオウムの違い](#)
- [・九官鳥が人の声の真似をする理由](#)
- [・鳥が高空を飛んでも呼吸が出来る理由](#)
- [・グンカンドリは他の鳥からエサを奪う](#)
- [・泳げるのに陸地を歩けない鳥がいる](#)
- [・アホウドリは本当にアホウ](#)
- [・フクロウはモモンガのしっぽは食べない](#)
- [・フクロウの足は長い](#)
- [・恐怖の肉食鳥](#)
- [・後ろ向きに飛行できる唯一の鳥](#)
- [・ドードーは三種類](#)
- [・ドードージンクス](#)
- [・吸血鳥](#)
- [・人間の匂いが、鳥のヒナについても](#)
- [・ツイッターの青い鳥のアイコンの名前](#)
- [・最も高い羽](#)

[おわりに](#)

はじめに

本書は【200種類】以上の雑学、無駄知識をテーマごとに集めた一冊です。

鳥、動物の雑学を集めました。
雑学なんて、役に立たないと思うかもしれませんが、話のネタになったり、知るだけでも楽しい時間を過ごせます。

暇つぶしに持ってこい。
電子書籍でしか載せることができないであろう
過激な内容もそのまま掲載しています。

ホッキョクグマ

・ホッキョクグマの肌は黒い

ホッキョクグマは、毛が反射して白くみえているだけで、肌は黒色です。北極では、周りが銀世界なので、毛の色を白くして外敵から見つからないように進化しました。

またホッキョクグマの毛の中心は、空洞になっており熱を逃がさず保温の効果があります。

毛が空洞なので、汚れると黄色っぽくなったり藻が入ると緑色になったりします。

動物園にいるホッキョクグマが黄色っぽいのは、毛の空洞に汚れがあるからです。

・ホッキョクグマが氷の上を上手に歩ける理由

実はホッキョクグマの足の裏には、毛がしっかりと生えています。毛が滑り止めの役割を果たしています。

・ホッキョクグマの肝臓を食べると死ぬ

ホッキョクグマの肝臓には、ビタミンAが高濃度で含まれています。食べると過剰摂取になってしまい、中毒を引き起こし最悪死んでしまいます。

ホッキョクグマの肝臓は、皮膚乾燥、無気力、眼球乾燥、食欲不振、吐き気、脱毛、肝脾腫大、四肢長管骨の有痛性腫脹、頭痛、

悪寒、関節痛、口唇炎等を引き起こします。

・ホッキョクグマも冬眠する

一年中冬のような世界で生きるホッキョクグマも、条件によっては冬眠します。

餌が豊富な地域に住んでいる場合は、冬眠することはありませんが、餌が乏しい地域では、冬になると普通の熊のように冬眠して餌が豊富になるまで待ちます。

・ホッキョクグマは左利き

イヌイットのハンターが、ホッキョクグマを仕留める時に、左手を先に潰してから仕留めます。

イヌイットいわく、ホッキョクグマは左利きだそうです。

白熊が攻撃するときには、左手を使うことが多いそうです。
分かっても避けられないので意味はありませんが

・ホッキョクグマとペンギンは出会うことがない

ホッキョクグマは、北極にしか生存しておらず、ペンギンは、南極にしかいないため出会うことはありません。

・ホッキョクグマは狩りのときに鼻を隠す

ホッキョクグマの鼻は黒いので、雪原では、目立ってしまいます。

狩りをする時に鼻を隠し獲物を待ちます。
少し可愛らしいです。

クマ

・世界最小の熊

一番小さい熊は『マレーグマ』と呼ばれる種類の熊です。

主に東南アジアの熱帯雨林に生息しており、

身長1～1.5m 体重25～65kgしかありません。

目と口周り、胸の一部が白く、あとは黒い毛で覆われています。

一見すると犬に見えるぐらい小型の熊です。

・木彫りの熊のルーツ

北海道土産で有名な『木彫りの熊』のルーツは、

徳川義親という伯爵であり政治家が、1922年に旅行でスイスのベルンで買った、お土産の木彫りの熊がルーツと言われています。

北海道に持ち帰った木彫りの熊を、自分たちも量産して冬の間収入源にしようとしたのが始まりです。

・動物園のクマが冬眠しない理由

野生のクマは、冬には冬眠しますが、動物園のクマは冬眠しません。

野生のクマの場合、冬が近づくとエサを大量に摂取して、皮下脂肪を蓄えよう
とします。

動物園では餌の量を変化させることがないので、皮下脂肪が増えることがありま
せん。

この皮下脂肪が、冬眠には重要になります。

野生のクマであっても、皮下脂肪が増えないと冬眠することはありません。

・クマは冬眠中にはトイレに行かない

クマは、他の動物の冬眠と違い、トイレに行くことはありません。

冬眠中は尿が排泄されず、肝臓で吸収してエネルギーとして使います。

この循環によって長期間の冬眠を可能にしています。

・クマの冬眠は本当に寝ているのではなくボケーと過ごしている

実際には完全に寝ているのではなく、眠りが浅い状態です。

その際体温や心拍数、呼吸数を減らしています。

さらに食事や水も一切摂りません。

・アメリカグマの鳴き声

アメリカグマの子供の鳴き声は、人間の赤ちゃんの泣き声そのものです。

初めて聴いた人は、赤ちゃんが泣いているのでないかと勘違いしてしまいます。

森で赤ちゃんの鳴き声を聴いても、近づいてはいけません。

アメリカグマの赤ちゃんかもしれません、近くに親がいるので非常に危険です。

・不況になるとクマのキャラクターが人気になる

クマのグッズが不況になると良く売れるそうです。
原因は分かっていませんが、不思議な現象です。
(根拠はありませんが)

・グリズリーの顎の力

グリズリーは顎の力だけでボーリング玉を砕くことが可能です。
顎の力は人間の10倍以上だといわれています。

パンダ

・レッサーパンダとパンダは、実は違う種族

生息地や竹を好んで食べるという共通点がある。
レッサーパンダとパンダですが、種族が違います。

レッサーパンダはアライグマの仲間

パンダはクマの仲間です。

ちなみに、パンダの祖先は800万年前に絶滅したアイルラルクトスという生物です。

・先にパンダと名付けられたのは

パンダというと、白と黒のジャイアントパンダを想像しますが、
レッサーパンダの方が先に、パンダと名付けられていました。

ジャイアントパンダの方が知名度が高く、パンダといえばジャイアントパンダの方が
定着しています。

ちなみに「レッサー=lesser」とはより小さい
「パンダ」はネパール語の竹を意味しています。

・パンダの和名

普段私たちがパンダと呼んでいる動物は
正式名称は「ジャイアントパンダ」

和名では「シロクログマ」です。
そのままの名前です。

・パンダを撫でると

パンダはかなり油ギッシュで、撫でると手に白い脂のようなものが付きます。

・パンダの歯の数

42本あります。人間と同じように乳歯から生え変わります。

・パンダは一日のほとんどを食事に費やす

パンダは一日14～16時間を竹を食べるのに費やします。
一日13 k g 程食べ、春になると45 k g 食べることもある。
竹はほとんどが消化されず(20～30%しか吸収されない)フンとして排泄されます。

フンが一日で20 k g 以上になることもあります。
効率がかなり悪い。

・パンダは肉食系

パンダは、元は肉食動物でした。
本来は笹を食べるのには向いていません。
肉食動物なので、笹を効率的にエネルギーにすることが苦手です。

その為パンダは、一日中笹を食べていなければ餓死してしまいます。
生存圏に、笹が大量にあった為に、非効率な進化をしてしまいました。

・パンダの寿命

パンダは野生だと、平均20歳まで生きます。
人間に飼育された場合は25～30歳まで生きることが出来ます。

・パンダの指は7本

実はパンダには、7本の指があります。
はっきりとした指ではなく、小さな突起のようになっています。

動かすことは出来ませんが、笹を持つ時に役に立ちます。

・パンダの最高時速

パンダの最高時速は32 k mです。
それ以上はできません。
持久力はないので、運が良ければ人間でも逃げ切ることが出来ます。

・パンダは平和の象徴

中国では部族間で争いが起きた時に、パンダの描かれた旗を上げることで、休戦や戦いの終わり知らせるという風習がありました。
昔からパンダは平和の象徴とされてきました。

・パンダのマーキング

オスのパンダは縄張りを示すために、逆立ちになり木におしっこをします。高い方が臭いが消えづらいためわざわざ逆立ちをします。

・パンダの皮膚の色

パンダの皮膚の色は、
黒毛の部分は、黒色
白い毛の部分は、ピンク色になっている。

・パンダの毛皮の相場

パンダの毛皮を取引することは禁止されていますが、違法取引で一匹、約600～1000万円取引されています。

・1990年に絶滅危惧に指定されたパンダ

1990年にパンダは絶滅危惧として指定されましたが、2016年9月に数が2000匹以上になったために、絶滅危惧が解除されました。

・ジャイアントパンダは70%の確率で双子を産む

親パンダは双子のうちの1頭しか、育てることをしません。動物園では、双子を両方育てる為に、双子を時間で入れ替えることで母親に気づかれないように、母乳を与えています。

・パンダビジネス

日本にいる全てのパンダは、中国からレンタルしているものです。
値段はオス、メス一組で、年間1億円
しかも不注意で殺してしまうと5,000万円の賠償金も発生します。

それだけのお金を払っても、パンダを動物園に招く意味があり、集客に繋がっています。
あまりにレンタル料が高いため、一部ではパンダビジネスと呼ばれています。

・パンダの尻尾の色

パンダの尻尾の色は「白」です。
ちなみに「たればんだ」の尻尾は「黒」です。

・パンダのランランとカンカンは今ハク製になっている

ランラン・カンカンは、1972年に日中国交正常化を記念して、
中国から寄贈された「日本最初のパンダ」でありパンダブームの火付け役となったパンダです。

現在はハク製になり、多摩動物公園内のウォッチングセンターに展示されています。

ゴリラ

・草しか食べないゴリラがマッチョな理由

ゴリラは、ものすごい筋肉質です。

草食動物であるゴリラが、この筋肉を維持できるのは、腸内にある特殊な微生物のおかげです。

この微生物は草のセルロースを分解して、筋肉の材料になるアミノ酸を作りだしているからです。

肉食主義を実現するには、この微生物を体に住まわせる方法を見つけるのがいいのかもしれませんが。

・数百年前のゴリラ

数百年前のゴリラに、身長が3 mを超える種類が存在していました。『ギガントピテクス』と呼ばれまるでビッグフットそのものです。

意外にも草食で竹を主食としていました。

・ゴリラは顔に似合わず繊細

筋肉質で握力は500 kgもあるゴリラですが、実はかなりメンタルが弱い。知能が発達しすぎたゆえに、警戒心が強く少しの反応で大きなストレスを感じてしまいます。ストレスで下痢になったり、体調を崩すことがよくあるそうです。

知能が低い動物は、その場限りのストレスで済みますが、ゴリラはそうはいきません。
想像力があるので未来、過去のこととも考え苦悩します。

・避妊薬はゴリラにも効く

ピルの一部は、ゴリラにも同じように避妊効果があります。

・人間の風邪はゴリラにうつる

ゴリラのDNAは、98%が人間と同じで、ウイルスに対する耐性も似ています。
なので、風邪やエボラウイルス等も人間からうつることがある。

・ゴリラは毎晩新しいベッドを作る

毎晩ゴリラは、木や葉を敷き詰めていきベッドを作ります。
ゴリラは寝床で糞をする習性があるのでこのベッドは使い捨てです。
一晩で破棄される勿体ないベッドです。

・ゴリラは咳とゲップでコミュニケーションをとる

ゴリラは、細かい発声ができない。
そのため咳やゲップをすることで意思を伝えます。

動物園のゴリラの前で咳をすると、反応してしまうので注意です。

・ゴリラの血液型が全てB型というのは嘘

「ニシローランドゴリラ」という種類だけは、全員がB型ですが、他の種類のゴリラには、様々な血液型が存在しています。

正しくは「ニシローランドゴリラ」の血液型は全てB型です。

・ゴリラが糞を投げる理由

ゴリラにとって糞を投げるのは、求愛行動の可能性があります。動物園でゴリラに、糞を投げられたら、好かれている証拠です。

・手話を理解するゴリラ

手話で人間とコミュニケーションを取ることができる、「ココ」というメスゴリラがいます。

2000以上の単語を理解し、人間と会話をすることが出来ます。

ある時、ココが可愛がっていた猫が交通事故で亡くなってしまいました。その時、手話で「死ぬと何処に行くのか」ときいたところ

「苦勞のない穴にさようなら」と答えたそうです。死の概念を理解しています。

・ゴリラの名前の由来

ゴリラはギリシャ語で「毛深い女部族」という意味があります。

・ゴリラの学名はゴリラ・ゴリラ・ゴリラ

ニシローランドゴリラ＝学名：ゴリラゴリラゴリラ

マウンテンゴリラ＝学名：ゴリラゴリラベリンゲイ

ヒガシローランドゴリラ＝学名：ゴリラゴリラグラウアー

サル

・ニホンザルはお尻が赤いほどモテる

おしりが赤いということは、それだけ血行がよく栄養状態が良いことになり、メスからは魅力的に見えます。

ニホンザルは、顔やお尻が赤いほどモテるようです。

・金玉が鮮やかな青色の猿

サバンナモンキーの金玉は、なんと鮮やかな青色をしています。成人して交尾が可能になると青く色づいていくそうです。そして、綺麗な青色になるほどメスにモテる。

・喫煙して捕まったサルがいる

1923年のアメリカのインディアナ州で、喫煙をしたサルがいました。当時のインディアナ州では、喫煙が禁止されており動物であっても例外ではなく罰せられました。

・サルが同士が毛づくろいをしながら指を舐めている理由

毛繕いで指を舐める、理由があります。汗が乾いたものを舐めて、塩分を補充しています。自然界では塩分は貴重なもので、汗で放出される塩分ですら無駄に出来ません。

・尾のない猿をapeというが

go apeで「発狂する」という意味になる。

・サルスベリという木は本当に猿が滑るのか

「サルスベリ」は、木の表面がつるつるしていて登ることが出来なそうですが、野生の猿は、難なくこの木を登ることが出来ます。

サルスベリという名前は、猿が滑りそうに見えたから名付けられたものです。

・猿と呼ばれていた豊臣秀吉は

「猿」ではなく、「ハゲネズミ」とも呼ばれていたそうです。

・メガネザルの目は不便

眼鏡のように大きな目玉を持つ「メガネザル」は、周りを見渡すときに、わざわざ首を動かさなければなりません。目玉が大きすぎて、動かすことが出来ません。

暗い森に対応するため、光を多く集めれるよう進化した目玉は、不便なものになってしまいました。

・虫に認識されない程動きが遅い猿

「スローロリス」という猿は、名前の通り動きが遅い。
不思議なことに、素早い虫を捕らえることができます。

動きがあまりに遅いため、虫に動きを認識されないので、虫を捕獲することが出来ます。

・究極のフリーセックス

アフリカ、コンゴの熱帯雨林に生息している『ボノボ』はとても知能が高く穏やかで、平和主義といわれています。

その理由はフリーセックスにあります。

ボノボは、オス、メス関係なく、あいさつ代わりに、性行動を行います。
あいさつや、食べ物を貰ったら性行動かなりオープンに行われています。

暴力ではなく愛でコミュニケーションをとり問題を解決していきます。

異性が近くに居なければ、同性同士で性器を擦り合わせ、ホカホカと呼ばれる行為を行います。自分で性器をいじることもします。

・チベットモンキーは、子供をだしにして仲直りする

チベットモンキーは、喧嘩をして相手に許してもらえない時に、可愛い子供を連れていき、それをだしにして仲直りをします。

チベットモンキーは、子供がとても好きなので、怒っている相手でも和んでしまいます。
仲直りのしるしとして、子供を二人で持ち上げてあやす行為をします。

・童謡でおなじみ「アイアイ」と言う猿は

マダガスカル島では、アイアイは悪魔の使いとして虐殺された。
現在では絶滅寸前です。
「おさるさーんだよー♪」と呑気に歌っている場合ではない状況です。

・オラウータンの顔の広さ

オラウータンには、顔の横には「フランチ」と呼ばれるヒダがあります。
フランチは、男性ホルモンが分泌されるほどに成長していきます。

そして、フランチが大きいオスは、メスにモテるようになり、強いオラウータンの証でもあります。
ちなみに人間も、男性ホルモンが多いほど顔の幅が広がる傾向があるそうです。

・チンパンジーの握力は300kg

チンパンジーに襲われ、掴まれてしまうと肉がもげます。
体型はそこまで大きくないのに、300 kg もの握力があります。
その秘密は、チンパンジーの筋肉の繊維の長さです。
筋肉繊維により、強力な力を発揮します。

実際にアフリカでは、クルマのフロントガラスを叩き割り、ドライバーを引きずりだす
事件も発生しています。
ちなみに、ゴリラの握力は 1 t を越える。

・チンパンジーの表情

チンパンジーの知能は高く、表情でコミュニケーションを取ることが出来ます。
人間のように自分より力が強いものに対して、愛想笑いをしたりご機嫌を取ろう
とします。

知能が高いからこそ出来る芸当です。

・チンパンジーは共食いをする

しかも、オスはメスに対してDVまがいなこともするそうです。
チンパンジーはハゲタカみたいに屍肉を喜んでた食べ
他の群れの子供を襲って殺そうとします。

知能が高いからこそ・・・

・チンパンジーはもう一つの進化の形

猿から類人猿へと進化して人間が生まれました。
そして類人猿が別に進化した存在が、『チンパンジー』です。

・それぞれ勃起時の大きさ

ゴリラ 3cm

オラウータン 4cm

チンパンジー 8cm

ボノボ 14cm

ヒト 15cm

・インドネシアの働くオランウータン

2003年にインドネシアの奥地のカレンパンジ村で、売春をさせられているオランウータン「ポニー」が保護されました。

この村には売春宿があり、他の女性と共に働かされていたそうです。毛は全て剃られており鎖につながれた痛々しい姿で発見されました。

ポニーは助けだされ精神的な傷を負ってまいりましたが、献身的なりハビリにより現代では野生に戻る事が出来たそうです。

カバ

・カバによる被害

いっけんおとなしそうなカバですが、実はかなり危険な動物です。地上では時速40kmで走り、ターゲットになると普通の人では逃げることは出来ません。

特に発情期は注意が必要です。

・カバは自分のうんこを目印にする

カバは夜間に移動する際に、うんこをまき散らしながら移動します。うんこを目印に川や泉に戻ってきます。

カバは肌が弱いため日中、水の中にいなければなりません。日が昇る前に、戻ってこれるようにするために、大切な目印がうんこです。

・カバは泳げない

カバは泳げません。しかし、水中を歩くことができ、5分程度なら潜水することができます。

・カバの汗は赤い

カバの汗が赤い理由は、皮膚を保護する為です。カバの皮膚には体毛がないので、紫外線や乾燥に弱い。そのため体を保護するため赤い汗をかきます。

汗はローションの代わりになり、赤は紫外線を通しづらく強い日差しから体を守ります。

他にも、
カンガルーも赤い汗をかきます
カモシカの汗は青く
ガゼルの汗は黒い

・カバの母乳の色

カバの母乳はピンク色です。

・カバの肉はうまい

カバは遺伝子的には、牛に近いので美味しい。
アフリカでも、ほとんど食べられるものではなく、珍し食材とのことです。
ちなみに、象の肉は筋だらけで臭くってまずいそうです。

スカンク

・スカンクは、臭いとモテる

もの凄く臭いことで有名な、スカンクのオナラは1 k m離れていても匂います。

スカンク自身にとっては、良い香りらしく、臭いほど異性にモテるそうです。臭ければ、それだけ強力な武器を持っているということで魅力的なのでしょう。

・スカンクが出してるのはオナラではない

敵に襲われた時にオナラをして、難を逃れるスカンクの生体は有名ですが厳密にいうとオナラではありません。

肛門の内側にある袋から、噴出させている霧で、オナラとは別ものです。

臭いは4カ月は取れないと言われ、例えるなら都市ガスを強力にした匂いがするそうです。

目に入ると失明することもあります。

スカンクのオナラを希釈すると、マツタケの匂いになるそうです。

元の臭いは強烈だが、希釈して香水として利用しているものがあります。

ちなみに、人糞も香水に使われていることもあります。

リス

・一年間のほとんどを冬眠

「ホッキョクジリス」というリスは、一年のうち8ヶ月も冬眠をします。北極という過酷な環境では、夏の短い間でしかエサを取ることが出来ません。動くだけ損になるので、冬眠をするように進化していきました。

・リスの尻尾はトカゲのように抜ける

外敵に襲われるとリスは骨を残して、毛皮の部分がゴツソリ抜ける。生物学者が新種の哺乳類を発見・捕獲したところ尻尾の抜けたリスだったという笑い話もある。

リスは尻尾を抱き枕のようにして眠り、雪が降ったら傘代わり、砂漠では日傘にします。

そんな便利な尻尾ですが、抜けてしまった尻尾は再び生えてくることはありません。

・リスは後で食べるためにドングリを埋めるが

リスは、ドングリを埋めた場所のほとんどを忘れてしまいます。半分は分からなくなり、そのまま埋められたままになります。

地中のドングリが、やがて成長して木に育ちます。

・シマリスの大好物

シマリスは、木の実を食べている可愛いイメージがありますが、実際は雑食で何でも食べます。

そして、ネズミの脳みそが好物です。

鋭い前歯で、頭蓋骨に穴を空けて脳を食らいます。

ネズミ、モルモット、ハムスター

・実験用マウスの値段

1260円
箱代が1000円
本体が260円

実験にマウスが使われる理由は、生命活動が人間に似ており、哺乳類で最小の小ささ、繁殖の早さが実験に適しています。

同じ理由で、世代の交代の早いハエも実験によく使われます。

高度な実験をする場合は、サル等のより人間に近い動物を使います。最終的には治験等で、人間に試していきます。

・歴史上最大のネズミ

約400万年まえに存在したとされるネズミ『ジョセフォアルチガシア』は、全長240cm体重900kgにもなる超巨大ネズミです。

南アメリカに生息したとされており、水のなかの植物を主食にしていたそうです。最大級のネズミです。

・ネズミはどこまで増える

繁殖力の高いネズミが、どこまで増えるか試した実験が行われました。

十分なエサの供給と外敵がない空間環境を与え、健康なオスとメス二匹を放って様子を見ました。

ある一定まで増えると、ネズミが死んでいきました。

最大に増えた時の3分の1まで減ると再び増えていき、減少し増えることを繰り返していきました。ネズミの一定の数を保って推移していきました。

ネズミが死亡する原因は、数が増えすぎたことによる「ストレス」によるものとされています。

外敵がおらず、餌があっても「空間がなければ」増えることはできません。日本でも、同じ現象が起きているのかもしれない。

・ネズミの歯は伸び続ける

ネズミは、活着ている間歯が伸び続けます。

何かをかじっているのは、伸びてくる歯を削るためでもあります。

放っておくと、歩くのにも邪魔になるくらい伸びてしまいます。

・ネズミの驚きの能力

ネズミは嗅覚は犬より優れている。

人間の3倍以上の嗅覚能力を持っている。

さらに聴覚は、超音波といわれる2万Hz（ヘルツ）以上の周波数を聞き分け、ネズミ同士の会話は超音波で行われます。

そして味覚は鋭く、毒を判別出来るので、毒餌を食べることはほぼありません。

・遺伝子組み換えネズミ

ロシアで行われた遺伝子組み換え実験で、人間の母乳を出すネズミを作ることになりました。

分泌される量は少なく、実用化はせれませんが、他の動物(牛、ヤギ等)に応用することが出来れば、母乳を量産することが可能になります。

・ネズミの列車

ジャコウネズミの子供は、迷子にならないようにお尻にかみついて移動します。どんどん繋がっていき、まるで列車のように移動します。ちゅーちゅートレインです。

・ハリネズミの針は毛

実はハリネズミの針は、毛が集まって固くなったものです。根元は柔らかく、体を傷つけないようになっているので安心です。

近年ペットとして持ち込まれたハリネズミが野性化して神奈川県、静岡県などで目撃されています。

・ハダカデバネズミの耐性

アフリカに生息する、見た目が不細工なネズミ『ハダカデバネズミ』は、癌に対する強い耐性を持っています。

大量の放射能を浴びても、癌にならないそうです。
その理由は、体にヒアルロン酸が大量に含まれているからだといわれています。

・ハダカデバネズミの驚異の避妊法

ハダカデバネズミは、女王を中心に100匹程のグループで生活しています。
女王以外は、子供を産むことができません。

女王はメスが産まれれると、おしっこをかけます。
おしっこをかけられたメスは、子供を作る気がなくなってしまいます。

子孫を残すことが出来るのは、女王だけということになります。

・違いが判るネズミ

「プレーリーハタネズミ」のオスは、一度セックスしたこと個体と、一度もセックスしたことない個体とでは、メスに対する認識が変化します。

非童貞のオス、童貞のオスのケージに、金網越しにメスを配置して、顔を合わせさせると、最初は童貞・非童貞共に興味津々で匂いを嗅いだりしますが、次第に興味を無くす。

しばらくたってから、メスを別の個体に入れ替えると、非童貞のオスは新しいメスに興味津々だが、童貞のオスはまったく興味を示さなくなってしまいます。

童貞のオスは、目の前のメスが別のメスに入れ替わったことが認識できません。メスの個体差や区別する能力がなぜか、ありませんでした。

このプレーリーハタネズミは全生物中で珍しい、一夫一妻の繁殖方式を採用しています。

交尾をした相手と添い遂げる為に、区別が出来るようになるのではないかとされています。

・江戸時代にハツカネズミの飼育が静かなブームに

江戸時代に、白いハツカネズミがペットとして人気でした。専門ショップができた、飼育書が発行されたりしてた。

当時の絵画にも、ペットのハツカネズミの絵が残っています。

・「とがりねずみ」は食べ続けないと死ぬ

「とがりねずみ」は、全長3cm 体重は1.5g のとても小さなネズミです。この小ささの為に、体温を保つのが難しく食べ続けなければ、体温を保つことが出来ません。

30分毎に食事と休憩を繰り返します。
3時間何も食べないと餓死してしまいます。

・実験用のマウスの殺し方は、クラッカーのように引っ張る

現代ではあまり行われることはありませんが

正確には、尻尾ではなく頸椎を引っ張り、一瞬で死亡させます。

残酷にみえますが、あまり苦しまずに安楽死をさせる方法です。

・最も高くジャンプできる動物

最も高くジャンプできる動物は『カンガルーネズミ』と呼ばれるネズミです。ネズミですが、後ろ足としっぽで歩行してジャンプします。そのジャンプは全長の35倍(全長8～14 c m)にもなります。

・ヤマネは冬眠中に起こされると死ぬ

ヤマネは冬眠する動物ですが、あまり体に脂肪を蓄えることが出来ません。冬眠中は体温を極端に下げること、エネルギーの消費を抑えている状態になります。起こされてしまうと、低い体温を上げる為に莫大なエネルギーを使うことになってしまいます。邪魔されるとエネルギーが不足して、餓死してしまいます。

・母親ハムスターは栄養が足りなくなる子供を食べてしまう

ハムスター母親は、乳を与えていると栄養不足になりやすく、生き残る為に、自分の子供を食べてしまうことが、まれにあります。

ハムスターを飼育するときは、母親の栄養状態に気を付けましょう。

・ハムスターをお風呂に入れてはいけない

ハムスターは、もとは砂漠のような乾燥した地域に住んでおり、水に濡れることが苦手です。
汚れた場合は拭くだけでいい

運が悪いと死んでしまうことがあります。

・ハリネズミの脈拍

ハリネズミの脈拍は300です。
1分間に300回という速さで鼓動しています。

・ネズミが治療薬

古代エジプトでは、ネズミをペーストして歯の鎮痛剤として使ったという記録があります。
※鎮痛作用はありません

16世紀のイングランドでも、ネズミの半分に切りイボに載せるという治療が行われていました。感染症になるので逆効果です。

この時代は、ネズミは食材として食べられていたので、その時代の人間は免疫力が強かったのかもしれませんが。

・ネズミの共感能力

モントリオール大学が行った面白い研究があります。
同じオリで生活しているネズミの1匹に、電気ショックを与えた後に、

他のネズミにも、電気ショックを与えると、より強く痛みを感じるようになりました。

仲間が痛がっているのをみて、強く痛みを感じてしまうようになりました。

ただし、一緒に生活していない関係の薄いネズミで試しても、痛みが増すことはなく共感することはありませんでした。

ゾウ

・ゾウの歯はすり減って無くなる

ゾウの歯は4本しかありませんが、3～5 k g のもの重さがあります。生涯で6回も生え変わります。

それ以降は、生えてくることはなく食事が取れなくなります。

一日に約200 k g ものエサを、食べるため歯がすり減ってしまいます。

・ゾウの糞の量

ゾウは、一日になんと約50kgもの糞をします。一日に餌を200kg以上も食べるので当然、出るものも大量です。

・ゾウの嗅覚

ゾウは5 k m先の水源の臭いを、嗅ぎ取ることが出来ます。視力が低いので、嗅覚が発達しています。

・ゾウは敬語が理解出来る

動物園の飼育員は、ゾウに対して、敬語で話すことはないそうです。もし敬語で話しているのを聴くと、ゾウは飼育員を下にみます。そうなるということを、聞かなくなり踏み潰される危険性があります。

・ゾウの耳が大きい理由

ゾウといえば、長い鼻と大きな耳が特徴的です。
鼻は、餌を採取するためですが、
大きな耳は、体温調節をする効果もあります

大きな耳は、皮膚が薄く、血管が多く存在します。
熱くなると、耳をパタパタさせて、体温を効率的に下げることが出来ます。

・ゾウの記憶力

ゾウは、記憶力に優れていて、自分の仲間を殺した人間の顔を覚えている。
通りすがりの村で、その人間の顔を見かけ村を破壊しつくす、という事件が発生
しています。

何十年経った後の事でも、覚えています。
その記憶力の為に、ゾウは仲間を埋葬をしたり、お墓を作り死者を思い出すそ
うです。

・ゾウの妊娠期間は約2年

ゾウの妊娠期間は2年と、動物の中で最も妊娠期間が長く、
胎児の発育にも時間が掛かります。
出産時には、胎児の体重は100～150kgにもなります。

ちなみに世界最大の生物と言われる、シロナガスクジラの妊娠期間は約1年で
す。

・ゾウの表面積を求める公式

$8.245 + 6.807 \times \text{ゾウの身長} + 7.03 \times \text{ゾウの前足の太さ} = \text{ゾウの表面積}$
2002年にイグノーベル賞を受賞した公式です。

この公式は、薬を投与する量を決めるときに使います。

・ゾウは子供の頃は、水を飲むのに口を使う

子供のゾウは、まだ鼻が上手に使えず、口を使って水を飲みます。
可愛らしいです。

・ゾウの鼻は生まれつき器用に動かせるわけではない

ゾウは鼻を、器用に使って物を掴んだり細かい作業をすることが出来ます。
しかし子供のゾウは、自由自在に鼻を動かすことは出来ません。

鼻の器用さは、練習をすることによって、後から習得したものです。
生後6歳になれば、鼻を自由自在に動かすことが出来るようになります。

・オスゾウのヤバい時期

オスのゾウには、こめかみから謎の汁を出す、ヤバい時期があります。

ゾウといえば、頭が良く大人しいイメージがあります。
しかし、「こめかみ」から汁を出しているゾウだけは例外です。

一年に一度オスは、発情期に男性ホルモンも20倍になり狂暴化します。
この時期は「マスト期」と呼ばれ、こめかみから汁を垂れ流します。

動くものを見つけると、攻撃をしかけ狂暴すぎて手が付けられなくなります。
動物園では「mast期」のゾウは、危険すぎるので、お客さんの前に出さないようにしています。

ナマケモノ

・ナマケモノが動かない理由

1日、葉っぱ8gくらい食べれば生きていけますが、食べ物を消化するのに一ヶ月もの時間を要します。動いてしまうと、消化が悪くなってしまうのであまり動きません。動き過ぎるとカロリー不足で餓死してしまいます。

ちなみに睡眠時間は一日15～20時間
移動速度は時速120～180m

・ペット用のナマケモノは、約100万ぐらいで買える

食べる量も少なく草食動物(一日10g程度)なので、エサ代はあまり掛かりません。

穏やかな性格で、一日のほとんどを寝て過ごすので住みやすい環境を整えることに注意すれば手間も掛かりません。

環境が用意できれば、飼育しやすいペットです。

・ナマケモノは自分に生えたコケすらも食料にする

ナマケモノは出来る限り動かずに生きる為に、自分の体に生えたコケすら食べて栄養にします。

どこまでもナマケモノです。

・ナマケモノのトイレ

ナマケモノは一週間に、一度だけ木から降りて「ウンコ」をします。
そのウンコから育った藻を身体につけて、緑に変色させることで獲物に狙われな
いようにします。

・ナマケモノは水の中では俊敏に動く

ナマケモノは水中では、陸にいる時と比べると、約9倍の速度で移動することが
出来ます。
ちなみに、ナマケモノの陸での移動速度は最大時速180mです。

・ナマケモノのオスが繁殖期にメスを呼ぶときに「ピョー」と呼ぶ

赤ちゃんの鳴き声も凄くかわいいです。

・昔のナマケモノはヤバかった

紀元前164万年に存在した『メガテリウム』というナマケモノの祖先は、身長6m
体重4トンの超巨大生物でした。

二本足で立ち、木の葉を主食として生活していました。
この頃はまだ怠け癖がついておらず、早く動けたようです。

カンガルー

・オーストラリアのカンガルーの数

オーストラリアに生息しているカンガルーの数は、約4500万頭にもなります。オーストラリアの人口の約2倍です。

・カンガルーの求愛

カンガルーのオスが求愛するときに、上腕二頭筋をみせけるために、ボディビルダーのように腕を曲げてポーズを取ることがあります。

・妊娠する時期をコントロール出来る動物

カンガルーは交尾を行ったあとに、受精卵になっても着床するまでの時間をコントロールする能力があります。

受精卵の状態を保ちつづけて、妊娠したいときに着床させることができます。

約1年近く妊娠期間をコントロール出来るので、好きな季節に妊娠して子供を産むことができます。

ちなみに、熊やアザラシにも同じような能力があります。

・5 万年前のカンガルー

5万年前のカンガルーは、体長2.7m体重240kgという巨大な存在でした。巨大だった為に、ジャンプをすることが出来なかったようです。

・カンガルーの赤ちゃんの大きさ

産まれたばかりのカンガルーの赤ちゃんは、体長2.5cm体重1gしかありません。袋の中でゆっくり時間をかけて(120～400日)成長していきます。

・カンガルーは袋の中に産まれるわけではない

普通の動物と同じように生まれ、その後に袋に移動します。

・カンガルーの赤ちゃん

カンガルーの赤ちゃんは、生まれると自力で母親の袋の中に入り乳首を咥えます。そして、口と乳首がかくっ付いてしまいます。

ある程度成長するまでは、口と乳首がかくっ付いたままで育ちます。

・カンガルーは後ろにジャンプすることができない

カンガルーはジャンプして移動しますが、身体の構造上後ろに、ジャンプすることが出来ません前に進むしかありません。

前進する勇敢なイメージから、オーストラリアの海軍のシンボルマークとして採用されました。

カンガルーマークには、敵を前にしても決して後退することがないという意味が込められています。

・鳥の脳みそだけをすするカンガルー

「ツリーカンガルー」は、木に登ることが出来るカンガルーです。基本的には草食動物ですが、時々たんぱく質を摂取するために、鳥を捕まえます。

鳥を捕まえたら、脳みそをすすって後は捨ててしまいます。脳みそだけを食べるグルメなカンガルーです。

コアラ

・コアラはユーカリの木だけで生きている

ユーカリ以外は、他にはなにもいりません。
水さえも飲まずに生存可能です。
なので「コアラ」とは現地語で「水を飲まないもの」を意味する。

ただ病気にかかり、水分が不足すると、水を飲むこともあるそうです。
普段は水を飲むことはありません。

・コアラが木に捕まっている理由

コアラが木の幹に、捕まっている姿は可愛らしくみえますが、しがみつかなければ、ならない理由があります。

コアラは暑さに弱い生物で、暑さを防ぐのが目的です。
木の幹にしがみつくことで熱を逃がしています。
木にしがみつただけで、約9°C温度を下げる効果があり、生命維持に必要な行為です。

・コアラの赤ちゃん

コアラの赤ちゃんは体長2cm、体重1gという小ささです。
カンガルーの赤ちゃんと同じように、生まれたら母親の袋まで自力で登り、大きくなるまでミルクを飲みながら袋の中で育ちます。

・コアラはユーカリのせいで怠け者

コアラは、なまけものより長い1日22時間眠ります。
長く眠る理由は、ユーカリに含まれる毒の解毒する為だと言われています。

毒のない葉を主食にした、コアラは飛び跳ねるぐらい元気になるそうです。

コアラの祖先である「ディプロトドン」は
生存競争に負け餌を食べることが出来ず、淘汰されるしかなかった。
そこで誰も食べることがないユーカリに目をつけ、食べることで生き延びることが出来ました

その代償に、22時間睡眠という大きなハンデを背負うことになりました。

・コアラの病気

コアラはクラミジアに感染している個体があります。
もちろん人間にも染ります。

コアラのおしっこに掛かると、クラミジアが染ることもあります。

アリクイ

・アリクイが一日に食べるアリの数

アリクイが、一日食べるアリの数は「3万匹」です。
毎日それだけ食べられても、
アリの繁殖力が凄まじく、それ以上に増えていきます。

・アリクイには歯がない

アリクイの口の中には、歯がありません。
アリをそのまま舌で絡め取って食べるだけです。
動物園では、ペースト状のエサが与えられています。

・オオアリクイは爪が邪魔でうまく歩けない

オオアリクイの爪は、シロアリの巣を掘るために発達した爪ですが
歩くときに邪魔になってしまい、大きく足を上げないと動けなくなってしまいまし
た。

爪を内側にしまい、地面を手の甲で殴るように歩かなければならず、
移動速度が極端に遅くなってしまいました。

・コアリクイの威嚇

コアリクイは、威嚇する時に二本足で立ち上がります。
少しでも大きく見せようとしているのですが、

その姿が可愛すぎて、威嚇になっていません。

コウモリ

・コウモリの種類

哺乳類の種類で約20%はコウモリです。
5416種類のうち1240種類がコウモリです。

・血を吸うコウモリ

コウモリは一般的に血を吸うイメージがあるが、
実際に血を吸うのは、3種類だけです。

そして人間（哺乳類）の血を吸うのは「チスイコウモリ」だけです。

エモノが眠っている間に、噛み付き同時に血が固まらなくなる酵素、麻酔を分泌して傷口を舐めます。

血がすえなかった場合は、他の仲間が口移しで分け与えたりします。

・チスイコウモリは血を吸うと飛べなくなる

チスイコウモリは、生物の肌に傷をつけて血を吸うコウモリです。
最初は飛びながら、獲物を探します。
そして体重の半分もの血を吸います。
お腹いっぱいになると、ぴよんぴよんと跳ねて帰っていきます。

・コウモリは哺乳類で、唯一空を飛べる

(モモンガやムササビはただ滑空するだけ)

コウモリが自由に飛べる理由は、体重が極端に軽いこと、翼の24カ所の関節のおかげです。

筋肉と関節の微妙な動きによって、自在に方向転換をすることが可能です。驚きの構造です。

・コウモリ爆弾

第二次世界大戦中に、アメリカではコウモリに時限爆弾を取り付けた兵器が開発されていました。

ヘリコプターでコウモリ爆弾を投下して敵の格納庫を狙うというものでした。

実戦では使われませんでしたが、有効な攻撃手段とされていました。

アルマジロ

・ココノオビアルマジロは、産まれてくるときに

アメリカに生息する『ココノオビアルマジロ』は出産すると、必ず四つ子を産みます。空気で腸を膨らませて、水に浮かぶことが出来る変わったアルマジロです。

・アルマジロ驚異の装甲

アメリカ テキサス州で男性が庭にいたアルマジロに向けて、発砲したところ弾丸は跳ね返り、男性のアゴに当たってしまったという事件が発生しています。他にも弾丸を跳ね返したという事例が、何件か報告されています。

ちなみにアルマジロは一日18時間寝て過ごします

・アルマジロはおやつ

丸くなることで有名な動物、アルマジロ
丸くなったアルマジロは、外皮が非常に硬いためにジャガーの牙すらも通用しない無敵の球体となります。

しかし、現地の人間の子供たちに見つかると、丸くなったまま焚火に放り込まれてじっくり焼かれてしまいます。

子供に人気の「おやつ」が完成です。

その他動物の雑学

・動物の野生、飼育下での寿命

・キリンの寿命

野生キリンの寿命は約25年です。

飼育下で最大39年も生きたキリンも存在します。

・チーターの寿命

野生12年

飼育下16年

・シマウマの寿命

野生25年

飼育下30年～

・ライオンの寿命

野生15年

飼育下20年～

・ダチョウの寿命

野生40年

飼育下50年

飼育下の方が基本的に長生きします。

・生物の99%は滅びるか進化する

そのままの姿で、残っている生物は貴重です。
カブトガニ、シーラカンスはある意味種として優秀なのかもしれません。

・哺乳類だけヘソが存在しない

カンガルー、カモノハシは哺乳類ですがヘソが存在しません。

・動物にしっぽがある理由

動物は元は、海の魚が進化したものです。
魚の尾びれがしっぽになり哺乳類になりました。

しっぽは、バランスを取るのに役立っています。
人間にも尾骨にその名残が残っています。

・史上最大の草食動物

紀元前3600万年から2400万年の間にユーラシア大陸に生息していた『パラケラテリウム』は史上最大の草食動物です。

全長8.7m 体重20トンにもなり恐竜並みにデカいです。
サイの祖先ではないかと言われています。

・動物の死ぬまでの鼓動の数は一緒

ネズミは鼓動が、早いので早く死にます。
象は鼓動がゆっくりなので長生きです。

哺乳類の心臓の鼓動できる回数は、ほぼ同じで一生のうちに20億回鼓動します。4回の鼓動に対して1回の呼吸をします。

心臓の鼓動が多い程、早く死んでしまうということです。
人間も例外ではありません。

・異種交配された動物たち

ロバとシマウマを掛け合わせて「ゾンキー」という新種がメキシコで生まれました。
足の部分だけシマがあり、後は茶色い毛並みをしている不思議な生物です。

トラとライオンを掛け合わせた「ライガー」という新種もいます。
見た目はトラ模様の薄い大きな猫のようです。

ヤギと羊を掛け合わせた「ボツワナのトースト」
白い毛と茶色いがまばらな、ヤギのような新種です。

2種とも、無理な交配により身体が弱く、先天的に病気を持っていることが多い。生命の冒険ではないかと、批判する声もあります。

人間の異種交配も理論的には可能なので、どこかで新人類が存在しているかもしれません。

・狩りの成功率

チーター40～50%

ライオン20～30%

トラ10%

・草食動物が大きくなれる理由

草しか食べていない、牛やキリン等の草食動物が、なぜあそこまで大きくなれるのか、秘密は消化器官にあります。

草食動物の消化器官には、草から効率よくタンパク質に変換する菌が大量に存在します。

草を食べるだけで効率的に、栄養素を摂取することが出来ます。

人間や肉食動物には、この菌がないので草だけでは生きていけません。

人間も、菜食を主としている歴史をもっている一族で、野菜から効率よく栄養を取り出し、腸内にタンパク質を作り出す菌を持っている特殊な存在が確認されています。

・肉食動物と草食動物の見分け方

○肉食動物

目が前方にある(獲物を追いかける為)
鋭いギザギザした歯をしている(肉を食べる為)
睡眠時間が10～15時間程

○草食動物

目が両側にある(視野を広げる為)
奥歯が平らになっている(草をすり潰す為)
睡眠時間が3時間程

例外はありますが
ほぼ上記の特徴があります。

・最速の草食動物

ブロングホーンは、草食動物最速で、時速90 k mで15 k mの距離を走り続けることができます。
この動物に追いつけるのは、チーターしかいません。

生存圏にはチーターはいないので誰も追いつくことができません。

・あの動物の肉の味

カピバラ
豚肉のような味 塩漬けにして食べられることもあったそうです。

アルパカ
鳥のレバーのような風味があり、癖があります。
食感は固め

イルカ

日本では比較的食べられることがあるようです。
固めですが癖がなく食べやすい。多少臭みがある。

ゴリラ

肉が引き締まっており、固めの牛肉に近い。

キリン

油にしつこさがない。比較的食べやすい。

アザラシ

肉の色は濃い黒色
味はクジラに近くコクがある。

ラクダ

臭みがないが、歯ごたえがある。
赤身が多い馬肉に近い。

バイソン

アメリカの一部のお店で売っている。
脂分が少なく、固めクセがない。

犬

某国では、食べられています。
独特の臭みがあるそうです。食べるには工夫が必要

カラス

赤身が多い。クセがないそうだが
都会にいるようなカラスは、肉が臭すぎて食べられたものではない。

肉食動物は、臭みがありあまり美味しくはない。
草食動物は、癖がなく食べやすいそうです。

・天然記念物は捕まえるのは違法だが、食べるのは違法ではない

すでに死んでしまっている天然記念物を食べても、違法ではない

・動物園ができた理由

動物園のルーツは、国力を見せつける目的もありました。
どれだけの国を侵略したか、動物の種類で示していました。

現代では貴重な動物の生体を研究する為だと、保護の為という名目はありません。
しかし一度野生から引き離された動物は、野生に戻すことは出来ません。

・上野動物園一日の食費トップ10（パンダいないとき）

1位 アジアゾウ 9,127円

2位 オカピ 8,952円

3位 キリン 4,415円

4位 クロサイ 4,385円

5位 カバ 3,140円

6位 ニシローランドゴリラ 3,059円

7位 ホッキョクグマ 2,679円

8位 エゾヒグマ 2,523円

9位 アメリカバイソン 2,170円

10位 レッサーパンダ 2,062円

購入食材ランキング

1位 青草 39,595円

2位 孟宗竹 26,544円

3位 アジ 21,837円

4位 カシの枝葉 21,034円

5位 馬肉 20,318円

6位 乾草 10,838円

7位 サツマイモ 7,919円

8位 小松菜 6,755円

9位 ワラ 6,000円

10位 草食獣用ペレット 5,974円

・ポリショイサーカスは、虐待批判のため公演できない国が増えている

世界的にサーカスは、動物虐待の批判が強まっています。

アイルランド、イタリア、ラトビア、アメリカでも動物を使ったサーカスが近年禁止され、日本公演が頼みの綱になっています。

このままだと近いうちに動物なしのサーカスになるでしょう。

・オカピは油まみれ

毛皮が美しいことで知られるオカピですが、毛が濡れるのを防ぐために、その体から油が噴出しています。

かなりベトベトな黒茶のオイルを出しており、触ると色が付くほどです。美しい毛皮の秘訣は油です。

・アライグマは凶暴

某アニメのおかげで人気者になり、日本でもペットとして大量に輸入されるようになった『アライグマ』

しかし、可愛らしい外見とは違い気性が荒く凶暴です。

人間に懐くことはなく、爪や牙で攻撃をします。その凶暴性に、飼うことが出来なくなった、無責任な人が野に放ち全国で野生化しています。

・カピパラはお尻を揉むと寝てしまう

カピパラはお尻の部分に、小さなでっぱりがあります。
これは、しっぽがあった頃の名残です。

この部分を優しくマッサージすると、気持ちよくなり眠ってしまいます。
カピパラに触れ合える場所もあるので、試してみるのもいいでしょう。

・モグラは日の光を浴びても死なない

地上にでて、死んでいるモグラを発見した人が、勘違いした為に生まれた噂です。

人が見ていない時に、モグラは地上に出歩いています。

地中では死んでも発見されないだけです。

・モグラは泳げる

しかもクロールで泳ぎ、土の中より早く移動することが出来ます。

・モグラが一晩で穴を掘れる距離

一晩で頑張れば90 c m掘ること出来る。

・ソレノドンの毒

モグラの仲間ソレノドンは毒を持っており、噛みついたときに歯を伝って注入します。

ただこの毒の効力が弱すぎて、ほとんど意味がありません

外敵があまりいなかったのも、徐々に毒が退化していったようです。

・ホッキョクキツネは季節で色が変わる

ホッキョクキツネは、北極圏に生息している、真っ白な毛皮のキツネです。
しかし、真っ白なのは冬の時だけです。
夏になると黒い毛皮になり、見た目が変わります。

冬は雪カモフラージュして、夏は岩や地面にカモフラージュすることで、狩りの成功率を高めています。

・タヌキは死んだふりをよくする

タヌキは、大きな音や危険を感じると、死んだふりをします。
「狸寝入り」という言葉が生まれたのは、この習性のためです。

・死んだふりが上手な動物

死んだふりが、とても上手な動物がいます。
「オポッサム」という小動物で、外敵に襲われるとピクリとも動かなくなり死臭をだし、本当に死んだようになります。
死んだふりをしても、そのまま食べられてしまうこともあります。

オポッサムはカンガルーのような袋をもっており、子供を入れて子育てをします。
ペットにすることが可能で、日本のペットショップでも、ミニオポッサムが売られています。

・モモンガ専用の横断歩道がある

北海道の帯広市には、モモンガ専用の横断歩道があります。道路を作る際に、モモンガの生息する森が分断され事故が多発しました。その為、モモンガ専用の横断歩道、徒歩で移動するトンネルが作られました。

・ムササビは木登りは得意だが

ムササビは、木に登り、滑空することができますが、降りるのは苦手です。降りるためには、一步一步ゆっくり降りてきます。

滑空出来るように進化したために、手首が上手く動かすことが出来なくなったのが原因です。

・イズナというイタチの仲間は小さいのに大きなものに喧嘩を売る

イズナは、体長20 c m体重50 g の小さな生き物ですが、なんと巨大な生物にも果敢に挑んでいきます。そして、負けて食べられてしまいます。

可愛い見た目とは裏腹に、獰猛でそして弱い。

・ミーアキャットの食事

砂漠に住むミーアキャットは、生き残るために毒に耐性を得ました。毒のあるサソリやヘビをあえて食べます。

誰も食べない危険な生物を、主食とすることで生存競争に勝ち残ってきました。

・フェレットは配線工事をしていた

フェレットは、狭い穴に潜りたがる習性があります。昔の欧州では、その習性を利用して地下の配線工事の時にフェレットの尻尾にヒモを結び、配管の中を移動させていました。

・メスのフェレットが発情すると

メスのフェレットは、一度発情すると交尾をしないでいると死んでしまうことがあります。

女性ホルモンのエストロゲンが交尾をするまで分泌され続け、交尾が出来ないと、副作用により骨髄の動きを止めてしまうため、血液の製造が止まり貧血を引き起こしてしまいます。

・チンチラの体にはノミが存在しない

チンチラの毛密度が最も高い生物です。

1平方c mに約2万本の毛が生えており、ダニ等の寄生虫は、密度が高すぎて寄生することができません。

・動物のヌーは一年間で日本を横断する距離を移動する

アフリカに生息する草食動物のヌーは、雨季や乾期の時期に合わせて餌を求めて移動します。

その距離は、およそ2000 k mで日本の端から端までの距離を、一年間で移動することになります。

・サイの角は毛が硬化したもの

サイの角は髪や爪に近いもので、折れてしまったとしても時間が経てば再生します。

サイの角は漢方薬として高額で取引されており

末端価格は1kg 65,000ドルまで高騰しており、金より高価です。

・カモノハシは哺乳類でも卵を産む

カモノハシは、哺乳類なのに卵を産む不思議な生物です。

卵を産むのに、哺乳類と同じ乳腺を持っており、乳を与えて子供を育てます。

・ヤマアラシを漢字で書くと

「山荒らし」という漢字です。

ヤマアラシはその名前の通り山を荒らします

食欲が非常に強く、木の枝、皮、根を食い荒らし、

木を枯らしてしまいなす。

体長は90 c m程で小柄ですが、ヤマアラシが増えると、

山は荒らされ枯れ木ばかりになってしまいます。

・ウォンバットのうんこ

ウォンバットのうんこは、サイコロ状です。
これは、うんこが転がるのを防ぎ縄張りを主張するのに使う為です。

・バクはお尻を水につけないと排便出来ない

夢を食べる動物といわれている「バク」は、お尻を水中に入れなければ排便しません。
陸の敵に狙われないようにするためではないかと言われている。

・動物が逮捕

リスがスパイ容疑で逮捕
2007年イランでリス14匹がスパイ容疑で逮捕されました。

2009年ナイジェリアで武装強盗未遂でヤギが逮捕された。

2011年パキスタンからインドの国境を越境したため逮捕された。

鳥の雑学

ニワトリ

・ニワトリが安心する光

ニワトリ小屋の照明を、赤色にすることでストレスが減り、共食いやつつく行為が少なくなるそうです。

赤い照明を付けて飼育しているニワトリ小屋も存在します。

・ニワトリはカルシウムが不足すると、自分の卵を食べてしまう

ニワトリは卵を産むと、カルシウムを大量に消費してしまいます。カルシウムが不足すると、自分が産んだ卵を食べて栄養を補給しようとしてしまいます。

養鶏場では餌にカルシウムを混ぜるか、ゴルフボールなどで偽の卵を置いて対策しています。

・黄身が2つの卵

時々黄身が2つある卵があります。この卵を羽化させると、双子が産まれるわけではありません。

ヒヨコの本体は、黄身の横にある白い胚と呼ばれる部分です。なので羽化しても一匹しか産まれません。

・食肉用に品種改良されたニワトリの30%は

一部の食肉用のニワトリは品種改良されすぎて、約30%は歩行困難になります。
通常のニワトリは120～150日で成体になるのに対して、
品種改良されたニワトリは40～50日で成体になります。

・ニワトリの上下社会

ニワトリは自由気ままに生きてるようにみえますが、厳しい世界で生きています。

朝鳴くのでさえ序列があります。
強いニワトリから順に鳴いていき、最後に弱いニワトリが鳴くようになっており、鳴く
順番すらも決まっている。
もし弱いニワトリが先に鳴くと、つつかれてしまいます。

・昔、男性の同性愛者を指す言葉として「鶏姦（けいかん）」という言葉が使われていた

「鶏強」とは、
ニワトリとセックスするという意味

鳥類は基本的に、総排出口という肛門と尿道口と生殖孔を兼ねた穴が、ひとつだけ開いている。
そのため、交尾が肛門性交のように見える。

男性の同性愛者の性交も、肛門で行われる為に「鶏姦」と呼ぶようです。

・オスのヒヨコの末路

基本的にオスは、即殺処分（生きたままミンチに）または移動動物園に払い下げられ、動物の餌になります。
運が良いヒヨコは、色を塗られて（色素に直で漬けられる）縁日で売られていた。
現代では、動物虐待ということで、カラーヒヨコは売られていません。

オスのヒヨコが生き残る唯一の道であるカラーひよこは完全に潰されました。
自分の目に触れないところで、殺されるヒヨコは愛護の対象外です。

・ニワトリがほぼ毎日卵を産む理由

ニワトリが卵を失うと、すぐに産みなおすという習性があります。
卵の回収を忘れると、新たに卵を産みません。

また照明を調節して、1日17時間サイクルで朝と夜を繰り返すようにすることで、さらに卵を産む速度を早くしている養鶏場も存在します。

・ニワトリが生涯産む卵の数

養鶏場のニワトリは生まれて4ヶ月くらいで卵を産み始め、
2年程で処分されます。
一年半の間に約300～400個の卵を産みます。

普通ニワトリは、5年生きることが出来ます。
しかし2年を過ぎると産卵が減り質も落ちるので、早めに処分されてしまいます。

ニワトリを寿命まで大事に育てた場合、
約600個の卵を産むことができるそうです。

・無重力下では卵は孵らない

卵には無数の穴が空いており、穴から必要ないものを外に排出し、酸素を取り入れ吸収しています。

不必要なものは、浮力により卵表面まで移動するのだが、無重力下では、浮力が発生せず中にどんどん溜まってしまいます。

その為、無重力では、卵は孵ることはありません。

ニワトリに限らず、生物は重力がない状態では、異常をきたすことになります。妊婦による実験も行われたことがあるそうです。

・ニワトリは飛ぶことが出来る

家畜のニワトリは、閉じ込められ飛ぶ練習が出来ず、餌を大量に与えられ太らされます。その為、飛ぶことは出来ません。

しかし自然で育ったニワトリは、短い距離なら飛ぶことが出来ます。ニワトリの祖先は、「セキショクヤケイ」だと言われており、数十メートルなら飛ぶことが出来るので、訓練次第では、家畜のニワトリも飛ぶことが可能です。

・羽が抜けたニワトリ

イスラエルの遺伝学者「Avigdor Cahaner」は、品種改良により、羽が全て抜けた状態のニワトリを、作ることに成功しました。

加工の際に、羽を耨るコスト削減を目的に作られたニワトリです。

その姿は肌が真っ赤で痛々しく残酷だと批判されています。
実用化されるのは、まだ先になるかもしれません。

・首を切断されて一年以上生存した鳥がいる

「首なしマイク」として有名です。

1945年9月10日アメリカ コロラド州で

農場で屠殺を行った時に、一匹だけ首をはねても死ぬことなく走り続けている鳥がいました。

自ら食物を取ることができなかつたので、喉から管を通してスポイトで水や流動食が与えられていました。

最後は喉に流動食を詰まらせてしんでしまいました。

最終的には首を切られてから「18ヶ月」も生存しました。

胴体に、脳幹が残っていて生命を維持することができたと考えられています。

ハト

・ハトやニワトリが頭を上下に動かして歩く理由

ハトやニワトリが歩いているのをみると、頭を上下に動かして独特な歩き方をしているのに気づきます。

それには理由があります。

鳥の目は、左右に離れていて視野は広いが、物を立体的に捕らえることは苦手です。

頭を振ることで角度をつけて、物を立体的に捉えることで、それを克服しています。

・伝書バトは平均時速150 k m

伝書バトは1000 k m離れた場所でも、戻ることができます。

鳥のもつ帰巣本能利用しています。

ちなみに鳥の中で一番速く飛べるのが、ハヤブサで急降下時には速度が時速390 k mになります。

・ハトは乳でヒナを育てる

哺乳類ではない鳥は、母乳でヒナを育てることはありません。

ハトは正確には母乳ではありませんが、ミルク状のものを分泌して、ヒナに与えて育てます。

・手品で白いハトを使う理由

手品でよく使われるハトは「ギンバト」という種類で、公園にいるハトとは違います。

この種類はおとなしく、暗闇で静かになる性質を持っている為、手品にはもってこいです。

・鳥類史上最も数が多かったとされる鳥は絶滅した

主にアメリカに生息していた「リョコウバト」です。

18世紀には最大50億ほどいたとされ、巨大な群れをつくって飛ぶため、記録では20億ほどの群体になって空を数日埋め尽くしたそうです。

しかし食用に適していることが分かり、乱獲され始めて100年ほどで絶滅しました。

・公園の鳩は人が近づいても、なぜ逃げないのか

鳩の多くは、昔伝書鳩やペットとして飼われていたものが、野性化して増えたものです。

なので人に対する警戒心が小さい。

1000年単位で人に飼われていたのが鳩なので、本能で人間に対する警戒心が薄れているようです。

・カラスの頭のよさ

カラスは他の鳥と比べると、体の大きさに対して脳が大きいのが特徴です。餌を与えて人間に懐かせれば、芸を覚えることも出来ます。

意地悪をした人間のことはいつまでも覚えており、その人間の車や家に糞をまき散らしたり、ゴミを散らかすようになるそうです。しかも、仲間で情報を共有するのでタチが悪い。

・カラスの卵

カラスの卵は、カラフルなチョコミントのような柄をしており、鶏の卵より少し小さめです。

カラスは、人間にみつかるといふような場所に卵を隠したりせず、卵をみたことのある人は少ない。

・カラスは道具を使える

カラスの知能の高さは、普通の鳥のレベルを遥かに超えています。道具を使う姿が実際に目撃されています。

パンを餌にして魚釣りをする
木を加工して、穴に木を差し込み幼虫を取る
クルミを道路に置き、車にひかせて割る
蛇口をひねって水を飲む
などなど

・ダチョウの脳みその大きさ

最も大きい鳥類であるダチョウですが、脳の大きさはたった40 gしかありません。鶏の卵ぐらいです。鳥類は基本的に脳みそが小さいが、ダチョウはかなり小さいです。

・ダチョウが土の中に頭を突っ込む理由

ダチョウは、外敵が近づくと頭を土の中に突っ込みます。間抜けな行動に見えますが、意味があります。

実は土に頭を突っ込むことで、地面から伝わる振動を感知して外敵に位置を掴んでいます。音を察知して、いつでも逃げられるように警戒しています。

忍者も、地面に耳を当て足音を察知していたと言われており、理にかなった方法です。

・ダチョウは体に小石を1 k gも体に溜めている

ダチョウは鳥なので、歯を持っていませんそこで食べ物をすりつぶす為に、小石や砂を体内に溜め込んで、それを歯の変わりにしています。

・ダチョウの卵で、ゆで卵をつくるには

ダチョウの卵で、ゆで卵を作るには熱湯で『4時間』ゆでなければいけません。

・ダチョウのスタミナ

ダチョウは飛べない代わりに、脚力とスタミナがすごい
時速60 k mで走ることができます。
サラブレッド並みの速さです。
しかも持久力があり、一時間以上同じ速度で走ることができます。

ダチョウを飼いならし人間が乗ることも可能です。
馬より優れた移動手段かもしれません。

・最も長生きした鳥

1796～1916年の120年間生きた「コッキー・ベネット」という名のキバタンです。人間より長生きであったため、飼い主が3度も変わっています。

最初の飼い主とともに世界中を旅をしています。
(写真が残っていますが、事実かどうかは分かりません)

・冬の雀が大きい理由

寒い時期になると、大きな雀を見かけます。
実は大きいわけではなく、羽を逆立て膨らんでいるだけです。

空気の層を作りだして、寒さを防いでいます。
飛び立つ時には、元の大きさに戻り飛びます。

・小鳥がさえずる理由

可愛らしい鳴き声で、小鳥がさえずっているが
あの鳴き声のほとんどは、縄張りを主張している声です。

・カナリアの危険察知

イギリスでは鉱山採掘をする時に、カナリアを現場に持ち込まれていました。
カナリアは酸欠になったり、有毒ガスが発生すると、真っ先に死んでしまいます。

カナリアがいれば、人間が危険な状態になる前に、察知することが出来きて避難することが出来ます。

・カナリアは歌を忘れることはなく新曲を毎年覚えていく

鳥は三歩歩けば忘れてしまうといわれますが
カナリアの場合は違います。

アメリカのロックフェラー大学のノティボーム博士の研究によると
カナリアは歌を学習する為の神経が、増殖し続けます。
毎年新しい曲を覚え、一度覚えた曲も忘れることはありません。

ちなみにカナリアとは、元はスペイン語で「犬」という意味でした。
カナリア諸島で見つかった鳥ということで「カナリア」と名付けられたました。
犬とは関係ありません。

・カナリアの色

カナリアは、一定の状況によって色が変わります。
唐辛子を食べると赤色になったりします。
光の加減によっても、羽が黒っぽく変わります。

・七面鳥の「七面」とは

七面鳥は、首元の色が赤、青、紫などに変化するので
まるで七つの顔があるように見えたので、七面鳥と名付けられました

・オシドリは浮気する個体が結構いる

オシドリ夫婦といわれるように、夫婦の仲のよい鳥と思われていますが、仲がいいのは卵が産まれるまでです。
一夫多妻制でオスはパートナーを取っ替え引っ変えしています。

・ペリカンが鳩を丸呑みする悲劇

ペリカンは、鳩を丸呑みすることがあります。
実はその後 鳩は酸で溶けることなく暴れ続けます。
そして消化されることなく共倒れします。

鳩は生命力が強く、羽は酸では溶けないので悲惨なことになります。

・毒を持った鳥

パプアニューギニアの鳥、「ピトフィー」は猛毒を持っています。
外見はオレンジと黒の羽が特徴的で可愛らしい。
「ホモバトラコトキシン」という毒を羽毛に持っており、人を殺してしまう(モウドクフキヤガエル等が持つ強力な毒です)

自ら毒を生成するのではなく、エサに含まれる毒が濃縮され有毒になっていきます。
フグと同じ原理です。

・フクロウには嗅覚がほとんどない

フクロウは聴覚が発達しており、嗅覚がなくても問題ありません。
スカンクを捕食するほどです。

・卵を産むと禿る鳥

サイチョウという鳥は、卵を産むと全身の毛が抜けて禿てしまいます。
そして禿たメスは、恥ずかしいのか巣から出てこなくなります。

その間の餌は、全てオスが持ってくることになります。

・ハゲワシが禿げている理由

ハゲワシが禿げている理由は、食事のとり方が関係しています。
ハゲワシは死骸を食べますが、その際に死骸の破れた部分に頭を突っ込んで中身を食べます。
頭が禿げていた方が、スムーズに頭を突っ込むことができます。
禿げているのには、理由があります。

・鷹（タカ）と鷲（ワシ）と鳶（トビ）の違いは大きさ

三種類全て、タカ目のタカ科で生物学上はまったく同じ生物です

鷲（ワシ）の分類

大鷲 全長88～120cm 翼開長220～250cm

鷲 全長75～95cm 翼開長168～220cm

鷹（タカ）の分類

熊鷹 全長75～80cm 翼開長160～170cm

大鷹 全長50～60cm 翼開長100～130cm

大きさだけが違うだけで、呼び名が変わります。

・渡り鳥の群れは何故V字の陣形で飛ぶ

渡り鳥の群れの多くは、V字になって飛んでいます。
それには理由があります。

鳥が飛ぶときに、左右に気流が発生します。
この気流に乗ることで、空気抵抗が減り、少しの力で飛ぶことができます。
つまりV字に並んで飛ぶことが最も効率がいい。

渡り鳥は、本能で負担の少ない飛び方がわかっています。
一番負担が大きい先頭は、少しすると別の鳥が先頭なり、交代していきます。

・世界最小の鳥

世界最小の鳥は『マメハチドリ』です。

ハチドリの中でも特に小さく、全長4cm体重1.5gしかありません。

1秒間に50～80回の羽を動かして空中に浮かび花の蜜を吸います。

なんと一日に1000回以上蜜を吸わなければ、消費カロリーを補うことが出来ません。

・卵やヒナがあるツバメの巣を壊すのは犯罪

卵やヒナがある巣を壊すと、鳥獣保護管理法で、「1年以下の懲役または100万円以下の罰金」が課せられる可能性があります。

フンや鳴き声が迷惑でも、勝手に壊してはいけません。

・ツバメが家に巣をつくる理由

ツバメは、なぜ森や山でなく、人のいる場所に巣をつくるのか
ツバメにとって注意しなければならないのは、カラスやヘビです。
人の家に巣を作れば、これらの外敵が侵入してくることが少なくなります。

ツバメは本能で人の家が安全と分かっています。

・何ヶ月も飛びつづける鳥がいる

「アマツバメ」という小型の渡り鳥は何ヶ月も飛び続けます。
食事、睡眠でさえも空中で行います。
地上に降りるのは、繁殖期のみです。

・アマツバメのデンジャラスな睡眠法

アマツバメは、数か月飛び続け食事も睡眠も空中で行います。

睡眠をとる時には当然羽ばたくのを止めなければならず落下しながら眠ります。

その間 1 ～ 2 秒
危険な方法で眠っています。

・ツルの一声とは

ツルの鳴き声は、周りが驚くような声で鳴きます。
遠くまで響き渡ります。

・水鳥が水面に浮く理由

水取には、尻尾のあたりから脂がでる線があり、クチバシで脂を全身につけます。

この脂によって、羽が水を弾くようになり、羽は空気を含み浮袋のよになり水面に浮くことができます。

脂を完全に落としてしまうと、浮くことができません。

フラミンゴ

・フラミンゴの食事法

フラミンゴは、頭を逆さまにしながら餌を食べます。
鳥類の中で唯一フラミンゴだけが、この食べ方をします。
クチバシが上下逆の構造をしているために、頭を逆さにした食べ方をします。

・動物園のフラミンゴが逃げない理由

動物園のフラミンゴの檻には、屋根がついていません、しかし逃げることはありません。
フラミンゴは飛ぶことが出来ますが、飛び立つには25m以上の助走が必要です。

檻の面積が25mより小さければ、屋根を付ける必要がないということです。

・フラミンゴが、水場で片足立ちしているのは単に水が冷たいから

フラミンゴは他の鳥と比べると、足が長く血管が細いので足が冷えやすい。
その為、片足立ちをします。
足を交互に入れ替えながら、寒さに耐えています。

・フラミンゴはエビを食べて赤くなる

フラミンゴは、元から鮮やかなピンク色をしているわけではありません。
食べている餌によってピンク色に染まっていきます。

エビなどの甲殻類や赤い色素を含むケイ藻類、藻類を食べることによって色がピンクに変化していきます。
そして赤くなる程に、メスにモテるようになります。

動物園では色が薄くなっていくのを防ぐために、餌に色素を混ぜて与えたりもします。

・ヒメコンドルは世界一下品な鳥

ヒメコンドルは、暑い時は自分の足に放尿して涼み、仲間のゲロを食べることもあります。

動物の死体(腐りかけ)も平気で食べます。
ヒメコンドルの消化器官は、大半の微生物、殺菌することができて汚染にも強いので問題ありません。

名前に姫がついていますが実際はかなり下品です。

・ウグイスの鳴き声

ウグイスの鳴き声「ほーほけきよ」の鳴いているところを観察すると「ほー」の部分で息を吸い込んで、「ほけきよ」の部分で息を吐いています。

・鳥の目

人間は『赤・青・黄・黒・白』の五色しか認識できません。
鳥類は七色見えており、人間よりも高性能です。

・クジャクの羽は美しさ以外役立たない

オスのクジャクは、メスにアピールの為に美しく羽が進化しました。
その羽のせいで移動に邪魔になり、強い風が吹けば転んでしまいます

美しさ以外の用途はありません。

・チドリの足

酔っ払いがよろよろと歩く姿を、千鳥足と言いますが、鳥のチドリも、足の指が、三本しかなくフラフラと歩きます。

その姿は酔っ払いが歩く姿によく似ています。

・生物史上最も大きい卵

最も巨大な卵は、恐竜ではなく、エピオルニスエピオルニスの卵です。「エピオルニス」は17世紀まで存在していた鳥です

地球上最大の鳥とし知られ
高さ3m 体重400kg
卵の大きさは、鶏の卵約150個分です。

現代生きている生物で、一番大きい卵はダチョウの卵です。
鶏の卵約20個分です。

・キツツキの頭への衝撃

キツツキは一秒間に20回のペースで、頭を振り木に穴を開けます。
高速で頭を動かしても平気な理由は、脳が小さいく長い舌によって衝撃を防がれているからです。
人間が同じ速度で、頭を動かしたらトラックにぶつかった衝撃が頭に走ることに
なります。

・キツツキがスペースシャトルに穴を開けて打ち上げ中止になった

1995年にディスカバリーの打ち上げが、キツツキのせいで中止になった。スペースシャトルを木と勘違いしたキツツキが、穴を開けてしまった事件が発生しています。

・ハチドリは蜜を舐めていないと簡単に餓死する

ハチドリといえば世界最小(2 g)の鳥で、花の蜜を主食としています。空中で、ホバリングすることが出来るのですが、ものすごくカロリーを消費します。

花の蜜を飲み続けないと、餓死してしまいます。人間に換算すると、1日に約50倍のカロリーを消費していることになります。

・インコとオウムの違い

基本的には、大型の物をオウム、小型の物をインコと区分されていますが、明確な区別はありません例外があります

地味なのがオウム
派手なのがインコ

王冠あるのがオウム
王冠ないのがインコ
と区分される場合もあります。

・九官鳥が人の声の真似をする理由

九官鳥がいつもと違う声で鳴くのは、異性を引き寄せるための求愛行動です。つまり愛おしい飼い主の声を、真似て呼び寄せようとしています。

そして、九官鳥が人の声を出せるのは、人間の舌と同じように肉厚な舌を持っているからです。

・鳥が高空を飛んでも呼吸が出来る理由

鳥の体の中には、肺以外にも「気嚢」と呼ばれる酸素をためておく器官があります。

酸欠になるような高空であっても、この器官のおかげで呼吸をすることが出来ます。

・グンカンドリは他の鳥からエサを奪う

グンカンドリは、海上を飛んでいるエサを食べている鳥を見つけると、エサを吐き出すまで追い回し続けます。

自分では狩が出来ないので、奪うしかないので。

「グンカンドリ」なんてカッコいい名前ですが、やっていることは略奪です。

屑のような鳥です。

・泳げるのに陸地を歩けない鳥がいる

「オオハム」という鳥は、魚より早く泳ぐことが出来ます。

水中に適応し過ぎたせいで、陸地では歩くことができません。

地上での移動方法は、アザラシのようにお腹を這って移動します。

・アホウドリは本当にアホウ

アホウドリは大型の鳥です。

あまりにも簡単に罠に掛かるので「阿呆ドリ」と名付けられてしまいました。

乱獲され絶滅寸前までに数を減らしてしまいました。

・フクロウはモモンガのしっぽは食べない

北海道ではそのへんにモモンガのしっぽが、落ちてる場所があります。フクロウの狩場です。

・フクロウの足は長い

フクロウの足は普段は羽毛で隠れていますが、しっかりとした長い足を持っています。羽毛を剃ってみると驚くほどのスタイルの良さです。

・恐怖の肉食鳥

「シジュウカラ」という鳥は、小型の白と灰色の可愛らしい姿をしています。他の鳥と同じように、木の実や昆虫を主食としています。

しかし、冬場になり餌が不足すると、肉食に変化します。シジュウカラの標的はコウモリです。コウモリを見つけるとまずくちばしで頭に穴をあけ脳みそをすすります。そして内臓をすすり残りは捨ててしまいます。

可愛い顔してやるのが残忍です。

・後ろ向きに飛行できる唯一の鳥

後ろ向きに飛行することが出来る、唯一の鳥は『ハチドリ』です。一秒間に80回羽ばたくことでホバーリングして、後ろ向き飛行も可能です。

・ドードーは三種類

絶滅したドードーは、全部で三種類しかいません。

モリシャスドードー

1681年以降目撃記録がありません

レユニオンドードー

1761年以降目撃記録がありません

ロドリゲスドードー

1778年に絶滅が確定した

ドードーは、人間に対する警戒心が全くなかったのであつという間に人間に狩られていきました。

・ドードージnkス

ドードーの研究に携わった人が、次々と謎の死を遂げている。

【ドードージnkス】と呼ばれる迷信

日本人では蜂須賀正氏侯爵が早逝している。

滅ぼされドードーの復讐なのかもしれません。

・吸血鳥

吸血をする鳥が存在します。

鳥類で唯一血を吸い、ダーウィン島、ウォルフ島に生息しています。

『ハシボソガラパゴスフィンチ』薄黒い羽と黄色く鋭いクチバシが特徴です。

獲物に静かに近づき、鋭いクチバシで突いて血液を吸います。

・人間の匂いが、鳥のヒナについても

人間の匂いが鳥のヒナにつくと、育児放棄するというデマがありますが、
例えば人間が保護のために触ろうとも、鳥は育児放棄することはありません。

そもそも鳥には匂いを嗅ぎ分ける器官が、鈍感なので判別することは出来ません。

巣から落ちてしまったヒナは、戻してあげた方がいいでしょう。

・ツイッターの青い鳥のアイコンの名前

名前は『ラリー』といいます。

・最も高い羽

『ホオダレムクドリ』という鳥の羽は1個で10,000ドルの値段がします。この鳥は、すでに絶滅しており、オークションでこの値段まで跳ね上がりました。

おわりに

本書を読んでいただき、ありがとうございました。
少しでも、暇つぶしになったのなら幸いです。

様々なテーマで雑学、無駄知識を製作中です。
10年間以上、趣味で雑学を集めたものを、まとめて再編集したのが本書です。
世の中にはまだまだ面白い雑学が、存在しているはずですよ。

雑学は無駄なものですが、読んでるだけでも面白い素敵なものです。役に立たないものこそ、価値があるのかもしれない。